



■研究課題名：
イングランドにおける移民・難民の子どもたちへの教育的支援
■研究者名、所属：菊地かおり（人間系・教育学域）
■研究分野：比較・国際教育学
■キーワード：イングランド、移民・難民、教育的支援

### 【研究の背景・目的】

本研究の目的は、イングランドにおける移民・難民の子どもたちに対する教育的支援にかかわる政策と実践を明らかにすることである。とくに、移民・難民の子どもたちの受け入れ方法やニーズの相違等に着目し、教育上必要な支援のあり方について考察する。

本研究では、移民（エスニック・マイノリティ）に加え、近年顕在化してきた難民の受け入れという課題を取り上げ、イングランドにおいて多様な背景をもつ子どもたちをどのように受け入れているのか、また学校においてどのような支援を行っているのかを検討する。このことは現在の日本社会が直面している課題でもあり、諸外国の取り組みの分析を通じて示唆を得られると考える。とくに、日本においては「外国人」と一括りにされがちな子どもたちがもつ多様性を踏まえた上で、学校教育のあり方を検討することが急務であり、本研究はこの点に資することをねらいとしている。

### 【研究の概要・成果等】

まず、文献調査を通じて、イングランドにおける移民・難民の子どもたちの教育的支援にかかわる政策の変遷を整理した。移民の子どもたちについては、戦後のコモンウェルスからの移民の受け入れを通じて、政策と実践が蓄積されてきた。難民の子どもたちについては、2000年代に入ってから政府文書において言及がみられるようになる。2004年には、教育技能省が『目標は高く：庇護希望者と難民の子どもたちの教育を支援するための手引き』を出すなど、庇護希望者と難民の子どもたちの多様な教育的ニーズに対応しようとする動きがみられた。これらの子どもたちが抱える主要な課題として、出身国での教育の中断、トラウマ、生活水準の低下、保護者からのケアの欠如が挙げられていた。また、基礎的なデータの欠如が財政的措置の欠如を生む状況が生じていた。

次に、現地調査を通じて、ロンドンの学校における移民・難民の子どもたちの受け入れ状況を確認した。この学校では、追加言語としての英語（EAL）部門が対応しており、学期途中での受け入れが頻繁に行われている状況が明らかとなった。また、受け入れ時点でアセスメントを行い、言語的ニーズの把握がなされていた（以上の調査結果を踏まえた報告として、菊地（2018a）を参照）。

これらの調査を通じて、移民・難民の子どもたちに対する教育的支援の論点として、①対象と目的の変化（誰に対する何のための支援か）、②固有のニーズの把握（誰のどのようなニーズに応答するのか）、③施策の推進主体（政府や学校など誰が取り組みを主導するのか）

が見出された。

【期待される意義や波及効果等】

日本においても、外国籍児童生徒の教育課題が徐々に取り上げられるようになっているが、認識の広がりや具体的な実践の蓄積という面ではまだまだ課題が多いと考えられる。とくに難民の子どもたちについては、今後日本でも受け入れが拡大する可能性もあると考えられ、すでにその取り組みを始めている諸外国の実践から学ぶことは多い。また、多様性を抱える学校現場における取り組みに与える示唆として、子どもたちの多様性を対処が必要な問題としてではなく、実践を豊かにする要素として捉えるような視点を提示していきたい。

【主な論文・著書・ホームページ等】

- ・杉田〔菊地〕 かおり（2011）「イングランドのシティズンシップ教育と共生」岡本智周、田中統治編著『共生と希望の教育学』筑波大学出版会、pp.283-294.
- ・菊地かおり（2016）「イングランドにおけるエスニック・マイノリティへの教育的支援」園山大祐編『岐路に立つ移民教育：社会的包摂への挑戦』ナカニシヤ出版、pp. 72-88.
- ・菊地かおり（2018a）「イギリスにおける『移動する子どもたち』の教育課題と支援：難民及び庇護希望者の受け入れに焦点をあてて」日本国際理解教育学会『国際理解教育』Vol. 24、pp. 50-60.
- ・菊地かおり（2018b）『イングランドのシティズンシップ教育政策の展開：カリキュラム改革にみる国民意識の形成に着目して』東信堂.